

『週刊現代』テロリストキャンペーン連載記事の情報漏洩疑惑

ジャーナリスト西岡研介氏に情報提供したとされる、 渦中の警察幹部が相次いで辞職！

8月25日発行の『中央ジャーナル』によると、松崎明さん（JR総連元特別顧問）に対する「業務上横領事件」デッチ上げで、奥村警視総監の下、公安部長として捜査の指揮を執った、伊藤茂男近畿管区局長と末井誠史交通局長ら警察幹部が相次いで辞職したことが報道されています。

今回辞職した2名は、いずれも24週にも渡り「テロリストキャンペーン」を繰り返し「業務上横領事件」デッチ上げに荷担した『週刊現代』連載記事（西岡研介記者執筆）に、情報提供したとされる警視庁幹部の上司であり、強引な捜査を繰り返してきた人物であることも紹介されています。すでに、『週刊現代』連載の舞台裏は、西岡研介記者自身が、裁判所に提出した自らの『陳述書』でも明らかにしているように、警察庁、警視庁、JR連合、嶋田一味、JR会社幹部などが一体となって繰り返されたことがハッキリしています。

「業務上横領事件」は、すでに不起訴が決定しており、如何に『週刊現代』の記事がデタラメであり、「業務上横領」を口実とした捜査が不当であったのかは、社会的に明らかになりつつあります。不当な捜査については、警視庁などに対して損害賠償を求める裁判も闘われています。今回の「警察庁幹部辞職」の報道から、不当な捜査の実態、情報漏洩まで犯し、西岡研介記者へ一方的・デタラメな公安情報を提供していた実態を推察することができます。このことから、「業務上横領」デッチ上げが、如何に政治的意図を持って繰り返されたJR総連破壊の弾圧であったのかが、あらためて明らかになりました。

私たちは、このような労組破壊の政治弾圧と断固闘っていきます。

またひとつ明らかになった、
公安警察の強引なマスコミが注目！
不当捜査の実態！